

授業科目名	記録遺産学		
科目番号	1F20011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 C 集中
担当教員	水嶋 英治, 白井 哲哉, 辻 泰明, パールィシェフ エドワルド, 江前 敏晴		
授業概要	文化財や文化的な資料を対象に、どのように記録を作成し、学術資料として管理していくかを解説する。記録された文化財(主として文字資料・映像資料)を取り上げ、アーカイブズ学・博物館学の視点から、古文書を含む歴史的公文書等・記録映像・文化遺産的資料(石碑・拓本・竹簡・木簡等)を取り上げ、ドキュメンテーション(記録管理)の方法論を学ぶ。		
備考	7/11(月),23(土),25(月),8/1(月),8(月)の1,2限 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	科目群 F		
水準・区分			
教育目的	物理的な文化財や情動的なデジタル文化財が混在する今日であるが、知識を後世に伝えるのは、文字であり、映像であり、記録である。ここでは、記録とは何か、記録遺産とは何かを多くの事例を通して自ら考え、文化的な資料を後世に遺産として残していくことを考える。		
到達目標	記録された文化財(主として文字資料・映像資料)を通して、知識情報学、アーカイブズ学、博物館学の視点から、歴史的公文書等・記録映像・文化遺産的資料(石碑・拓本・竹簡・木簡等)の重要性を認識し、自ら遺産価値を見出す視点を養う。		
キーワード	記録遺産, 歴史的公文書等, 記録映像, 文化遺産的資料, ドキュメンテーション, アーカイブ, 博物館学, 記録管理		
各回授業計画	<p>オムニバス形式の講義である。</p> <p>第1回【7月11日(月)1限 水嶋英治 図書館情報メディア系】 [映像記録遺産 映像の世紀]</p> <hr/> <p>第2回【7月11日(月)2限 辻泰明 図書館情報メディア系】 [映像記録遺産 映像の世紀]</p> <hr/> <p>第3回【7月23日(土)1限 非常勤講師】 [マイクロフィルムによる記録保存]</p> <hr/> <p>第4回【7月23日(土)2限 非常勤講師】 [マイクロフィルムによる記録保存]</p> <hr/> <p>第5回【7月25日(月)1限 江前敏晴 生命環境系】 [紙の保存化学]</p> <hr/> <p>第6回【7月25日(月)2限 江前敏晴 生命環境系】 [紙の保存化学]</p> <hr/> <p>第7回【8月1日(月)1限 白井哲哉 図書館情報メディア系】 [大震災の記録をどう残すか]</p> <hr/> <p>第8回【8月1日(月)2限 白井哲哉 図書館情報メディア系】 [大震災の記録をどう残すか]</p> <hr/> <p>第9回【8月8日(月)1限 エドワルド・パールィシェフ 図書館情報メディア系】 [ヨーロッパにおける記録遺産とアーカイブ, 記録遺産のまとめ]</p> <hr/> <p>第10回【8月8日(月)2限 エドワルド・パールィシェフ 図書館情報メディア系】 [ヨーロッパにおける記録遺産とアーカイブ, 記録遺産のまとめ]</p>		
履修条件	なし		
成績評価方法	レポート		
授業外における学習方法	授業内容に応じた小レポートを課す。		
教材・参考文献	1. 水嶋英治ほか編. デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法. 晃洋書房. (4月出版予定)		
オフィスアワー・連絡先	水嶋 英治 月 5,6 限 7D303 mizushima at slis.tsukuba.ac.jp		
履修者へのメッセージ	記憶と記録、映像記録、ドキュメンテーション等、多くのモノをみてください。		

授業科目名	都市・地域・環境を語る III		
科目番号	1F17021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 A 木 1,2
担当教員	大澤 義明, 藤井 さやか		
授業概要	近年の世界的な社会経済状況の激変により、私たちの住宅や、生活する都市、地域の環境は様々な変化の圧力を受けている。この変化を受動的に受け止めるのではなく、変化のメカニズムを理解し、望ましい環境を形成する主体的な知力を身につけることが求められている。本科目では、総合科目「都市・地域・環境を語る I,II」の発展形として、都市計画やまちづくりの実践事例を手掛かりに、社会の構成員である私たちが都市・地域・環境にどのように関わっていくべきかを考える。		
備考	(社工開設)平成 26 年度以前に総合科目 II「1C17121 都市・地域・環境を語る III」の単位を修得した学生は履修不可。 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	F		
水準・区分			
教育目的	近年の世界的な社会経済状況の激変により、私たちの住宅や、生活する都市、地域の環境は様々な変化の圧力を受けている。この変化を受動的に受け止めるのではなく、変化のメカニズムを理解し、望ましい環境を形成する主体的な知力を身につけることが求められている。都市・地域・環境を語る III では、都市計画やまちづくりの実践事例を手がかりに、社会の構成員である私たちが都市・地域・環境にどのように関わっていくべきかを考える。		
到達目標	A) 身近な都市・地域・環境の問題を発見できる B) 発見した問題について、その原因や影響を分析し、説明できる C) 問題を解決するため、自分が果たすべき役割とキャリア形成について考える		
キーワード	都市, 地域, 環境, まちづくり, つくば, 茨城県		
各回授業計画	<p>第 1 回【10 月 6 日 (木)1 限 大澤義明 システム情報系】 「社会学と茨城県下自治体との地域連携」 社会学が地元の茨城県下の自治体と連携して進めているまちづくりや地域貢献について紹介する。</p> <hr/> <p>第 2 回【10 月 6 日 (木)2 限 三上靖彦 茨城の暮らしと景観を考える会】 「NPO による茨城の地域活動」 茨城のまちづくり市民団体活動とそれを活かしたまちづくり活動を具体の事例を交えながら紹介する。</p> <hr/> <p>第 3 回【10 月 13 日 (木)1 限 山本幸子 システム情報系】 「空き家を活用した地域活性化」 古民家などの空き家の活用を通じた地域活性化事例について解説する。</p> <hr/> <p>第 4 回【10 月 13 日 (木)2 限 岡本直久 システム情報系】 「インフラの老朽化対策」 老朽化が進むインフラストラクチャ (道路、上下水道、公共施設等) の維持管理と再編の現状と課題について紹介する。</p> <hr/> <p>第 5 回【10 月 20 日 (木)1 限 木内敏之 木内酒造 (資)】 「食による茨城再生 1:茨城県の食資源」 江戸時代から続く老舗酒造からみた茨城県の食資源の魅力について紹介する。</p> <hr/> <p>第 6 回【10 月 20 日 (木)2 限 木内敏之 木内酒造 (資)】 「食による茨城再生 2:世界への発信」 江戸時代から続く老舗酒造の業種拡大・海外展開への挑戦と、今後の展望について紹介する。</p> <hr/> <p>第 7 回【10 月 27 日 (木)1 限 火箱芳文 第 32 代陸上幕僚長・現三菱重工顧問】 「東日本大震災と自衛隊による復旧復興支援活動」 東日本大震災の際に自衛隊が実際に行った復旧支援活動についての現状を現場の声を交えて紹介する。</p> <hr/> <p>第 8 回【10 月 27 日 (木)2 限 土屋智子 NPO 法人 HSE リスク・シーキューブ】 「リスクコミュニケーションの現場から～役割と限界～」 リスクコミュニケーションの概念を説明するとともに、茨城県東海村で発生した臨界事故以来関連してきた東海村のリスクコミュニケーション活動や福島県内の活動事例を紹介し、社会問題解決のプロセスにおけるリスクコミュニケーションの役割とその限界を示す。</p>		

	<p>第9回【11月10日(木)1限 野仲賢勝 株式会社電通スポーツ局】 「Jリーグクラブチームによる地域貢献 1:Jリーグによる取組み」 Jリーグによる地域貢献について、その考え方や具体的内容を紹介する。</p> <hr/> <p>第10回【11月10日(木)2限 野仲賢勝 株式会社電通スポーツ局】 「Jリーグクラブチームによる地域貢献 2:チームの取組み」 Jリーグクラブチームによる地域貢献について、その考え方や具体的内容を紹介する。 期末試験は実施しない</p>
履修条件	「都市・地域・環境を探るⅠ及びⅡ」とあわせて履修することで、より総合的な理解が得られる。平成26年度以前に「都市・地域・環境を探るⅢ」を履修したものの履修は不可。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・60%以上の出席が必須(遅刻は減点対象となる) ・授業内課題及び授業態度・・・講義内容の理解度及び積極的な参加姿勢(60%) ・課題(レポート)・・・問題発見と解決策の独創性、説明力、表現力、プレゼンテーション力(40%)
授業外における学習方法	講義中で紹介する文献・資料を読み、いろいろなまちを実際に歩いて観察する。
教材・参考文献	講義の中で、適宜指定する。
オフィスアワー・連絡先	<p>メールで事前に連絡すること。 大澤 義明 osawa at sk.tsukuba.ac.jp http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~toshiw3/Labo/Koshizuka/ 藤井 さやか fujii at sk.tsukuba.ac.jp 各回講師の連絡先は、講義中に案内する。</p>
履修者へのメッセージ	身近な都市・地域・環境に興味関心を持ち、また自分の将来のキャリア形成と関連付けながら講義に取り組んでほしい。